

2019年度【大阪地区】

登録ALC基幹技能者講習 修了試験  
問 題

1. 試験時間：60分
2. 問題数：25問（四者択一式：「最も不適當」な選択肢を選ぶ）

一般社団法人 ALC協会

**問題 1 登録基幹技能者制度に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 建設工事において生産性の向上を図り、品質、コスト、安全面で質の高い施工を確保することが求められている。
- 2 現場で直接生産活動に従事する技能労働者、とりわけその中核をなす職長等の果たす役割が重要となっている。
- 3 登録基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持つとともに、現場をまとめ、効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた者である。
- 4 登録基幹技能者は、いわゆる普通の職人として、元請の計画・管理業務に参画することが期待されている。

**問題 2 建設技能労働者の目標像に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 将来展望
- 2 中年入職
- 3 処遇改善
- 4 適正な評価

**問題 3 技能労働者の発展段階の各職階を示したものに関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 職長
- 2 中堅技能者
- 3 学習者
- 4 上級職長または登録基幹技能者

**問題 4 発注者の登録基幹技能者の評価・活用の声に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 建設現場の品質確保、安全性向上などのためには、現場で直接従事する技能労働者、職長の役割が重要であるため、登録基幹技能者制度は、有効な資格の一つである。
- 2 登録基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持つとともに、現場をまとめ、効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた技能者であるため、工事目的物の更なる品質向上等が期待できる。
- 3 登録基幹技能者を配置することは、主として工事速度の向上に大いに役立ち、早く、安くをモットーとした現場運営を行うことのできる技能者を評価することができ、今後の技能者のスキルアップにもつながる。
- 4 技能労働者の位置づけを総合評価方式の評価対象とすることにより、登録基幹技能者を積極的に育成している企業が元請企業から活用される機会が増え、優良な専門工事業者の確保、優良な技能者の処遇改善につながり、ひいては若年者の入職促進、技能の伝承につながる。

問題5 元請ゼネコンの登録基幹技能者における優秀職長または優秀職長手当制度に関して、最も不適当なものはどれか。

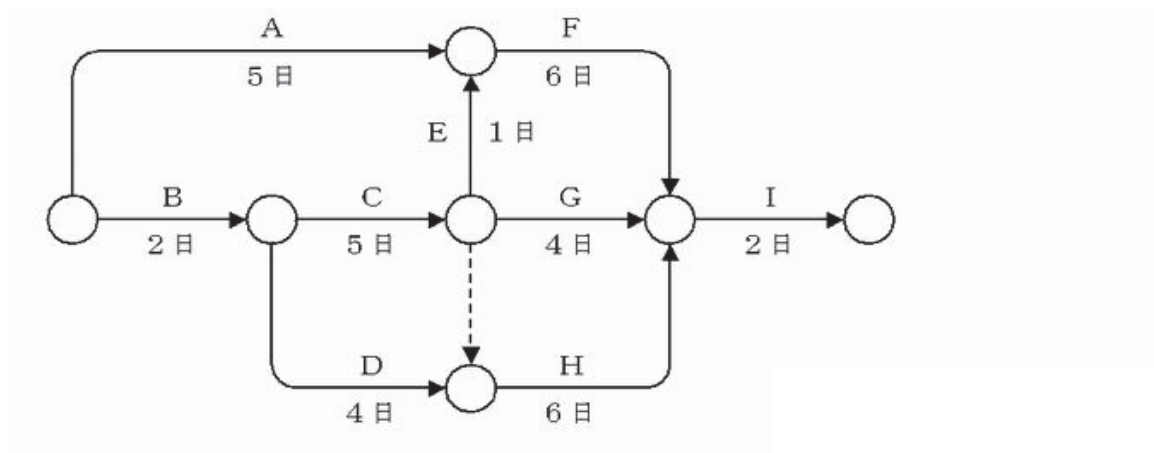
- 1 登録基幹技能者に手当を支給することになった要因としては、有資格者であることが一定の能力を担保している目安となっていることが挙げられる。
- 2 登録ALC基幹技能者に手当を支給することになった要因としては、ALC技能者が困窮に陥っていることが起因し、その給与体系の改善を目的とすることが挙げられる。
- 3 登録基幹技能者に手当を支給することになった要因としては、(一社)日本建設業連合会の提言に対する呼応が挙げられる。
- 4 登録基幹技能者に手当を支給することになった要因としては、国土交通省や建設業界の取組みに対する呼応が挙げられる。

問題6 OJT教育における一般事項に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 OJTとは、職場の上司が部下の育成のために、日常の仕事を通して行う指導・教育のことである。
- 2 OJT教育は、日常仕事を離れて行われる集合研修・教育のことである。
- 3 OJTとは、On the Job Trainingの略称である。
- 4 OJTでは、個々の教育ニーズを踏まえ、各職階に求められる役割・技能と教育・訓練事項を定めて、これらの教育訓練計画にそって、個別の指導をすることが必要である。

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 このプロジェクトの所要日数（工期）は、16日である。
- 2 この工程表は、ネットワーク式工程表である。
- 3 この工程表のクリティカルパスは、B→C→G→Iである。
- 4 この工程表における点矢線はダミーであり、作業はない。



**問題 8 法で定められた建設現場における安全管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 事業者は作業員を雇い入れた時、その業務に関する安全衛生教育を行う必要がある。
- 2 作業主任者の配置が必要な作業として、鉄筋の組立作業がある。
- 3 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努め、廃棄物は決められた場所に捨てることを徹底する必要がある。
- 4 複数業者が混在する現場で労働者数の合計が150人の場合、統括安全衛生責任者を選任する。

**問題 9 特性要因図作成のためのブレインストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 BSは、アレックス・F・オズボーンによって考案された裁判の方法のひとつであり、犯人決定、集団事件発想法、事件解決抽出ともいう。
- 2 BSは、集団でアイデアを出し合うことによって相互交錯の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法である。
- 3 アイデアの質にこだわらず、アイデアを量産することを目的としている。
- 4 誰かのアイデアに対してそこから連想されるもの、その他のアイデアとの結合を意識することで様々なアイデアへと発展させることができる。

**問題10 建設業法における技術者の配置に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 建設工事の適正な施工を行うためには、建設業者は実際に施工を行っている工事現場に技術者を配置しなければならないが、資格や経験は必要ない。
- 2 許可業者である建設業者は、請け負った建設工事を施工する場合には、請負金額の大小、元請・下請に関わらず、必ず工事現場に施工の技術上の管理をつかさどる主任技術者を置かなければならない。
- 3 発注者から直接工事を請け負い、総額4,000万円以上（建築一式工事の場合は6,000万円以上）を下請契約して施工する場合、主任技術者ではなく監理技術者を置く。
- 4 指定建設業7業種の場合の監理技術者は、一級施工管理技士、一級建築士、技術士等の資格を有していることが要件である。

**問題11 足場からの墜落防止対策強化に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 高さ2m以上の構造の足場の組立等の際には、困難な場合を除き、幅20cm以上の作業床を設置する。
- 2 足場の組立て等の作業に従事する労働者に対しては、特別教育が必要となる。
- 3 建設業の元請事業主等は、足場の組立て等の後は、次の作業を開始する前にその状態を点検し、危険のおそれがあるときは、速やかに修理しなければならない。
- 4 一側足場、つり足場を除く足場の作業床に関する墜落防止措置として、床材と建地との隙間を12cm未満とする。

**問題12 PDCAサイクルに関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 第1段階では、安全の確保は当然のこととして、品質、工程、原価の面で優れた計画を練り上げ、計画段階でチェックのタイミングや品質基準値などの判断基準を適切に設定しておくことが重要になる。
- 2 第2段階では、計画に基づき適切に施工するとともに、実際の施工状態を容易に判断できるようなデータを正確に調査・記録しておくことが重要になる。
- 3 第3段階では、計画通りに実施されているか、調査・記録したデータを検証・判断し、差異がある場合にはその要因を明確にするとともに、必要に応じて対処する。
- 4 第4段階では、第3段階における判断結果に基づき、是正処置を検討することなく、新たに計画を立てる。

**問題13 施工手順書に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 作業手順書は、作業の中で発生するムリ・ムラ・ムダを取り除き、「安全に、早く、安く、出来栄良く、かつ能率良く仕上げる」ための最も理想的な作業手順と急所によって組み立てられる。
- 2 作業手順書の作成には、仕事をよく知っている登録基幹技能者・安全管理責任者が中心となって、作業員の意見を聞き、それらを加味して作成する。
- 3 作業手順書は、全ての作業をまとめて作業として捉えたまま、作成する。
- 4 作業手順書は、現場の実情に合わせ、労働安全衛生法等の法令に違反しないように、できるだけわかりやすく、具体的に簡潔に表現し、作成する。

**問題14 見積原価の管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 土質、周囲の環境、近隣協定、駐車場の有無等、自社の施工に影響する現場条件を確認する。
- 2 設計図書で不明確な点や、図面間の相違点などを自社で確認しておく。
- 3 材料の支給や取り合い部分の施工の有無など、施工範囲を明確化する。
- 4 工事着手の時期や施工期間など、工程を確認する。

**問題15 専門工事業者の原価管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 見積りの作成では、現場条件、施工範囲等を検討し、条件に合わせた見積りをすることが大切である。
- 2 見積書の経費では、直接工事費だけでなく、社会保険料等の企業負担分をはじめとした会社経費も確実に確保しなければならない。
- 3 見積りでは、外注費として、労務費が㎡単価やm³単価等に含まれていることが多く、実行予算の段階では、作業員の人数、資機材の数量、現場経費等を明確にしておく。
- 4 実行予算の段階では、実際に注文したり手配したりする数量で算定し、計画と実績の数量比較については意識することはない。

**問題16 施工品質の確保・向上に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 施工品質を確保し、向上させるためには、可能な範囲で作業の標準化を図ることが必要である。
- 2 標準化した作業内容を文書化したものが「作業標準書」である。
- 3 登録基幹技能者は、作業標準書を熟知し、機会あるごとに施工チーム内にその内容を効果的に伝達しなければならない。
- 4 登録基幹技能者は、未熟練者や新規入場者に対しては、自身の経験だけで指導や指示することが必要である。

**問題17 総合的品質管理の必要性に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 品質の確保・向上には、設計・監理者や総合工事業者、専門工事業者等の間だけで品質の考え方について共有すればよい。
- 2 企業全体の参加、協力、統制による品質管理を総合的品質管理（TQC）と呼ぶ。
- 3 日本の高品質の源は、ボトムアップにあり、総合工事業者の現場組織や専門工事業者による地道な品質改善活動によるところが大きい。
- 4 近年はトップマネジャーのリーダーシップにより組織が一丸となって顧客満足度の向上を目指すTQMが普及している。

**問題18 ALCパネル工事の横壁アンカー構法で、自重受け金物を設ける際のパネル積重ね枚数に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 3枚
- 2 4枚
- 3 5枚
- 4 6枚

**問題19 ALCパネル工事の定規アングルや補強鋼材に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 梁の高力ボルト部分の定規アングルは、切り欠く、もしくはフラットバーなどを用いて補強を行う必要がある。
- 2 パラペット部や下がり壁の補強鋼材の縦材は、支持構造部材に2箇所固定する必要がある。
- 3 外壁の縦壁における定規アングルは、900mmピッチで支持構造部材に溶接する必要がある。
- 4 外壁の横壁における定規アングルは、900mmピッチで支持構造部材に溶接する必要がある。

問題20 ALCパネルと支持構造部材とのクリアランスに関して、最も不適当なものはどれか。

1 図1において、縦壁ロックング構法の梁とパネルとの間のクリアランスを25mmとした。

2 図1において、縦壁ロックング構法の梁とパネルとの間のクリアランスを35mmとした。

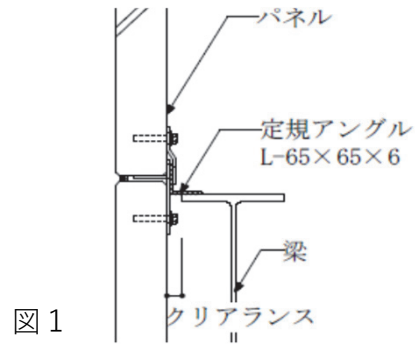


図1

3 図2において、横壁アンカー構法の本柱とパネル裏面（室内側表面）との間のクリアランスを70mmとした。

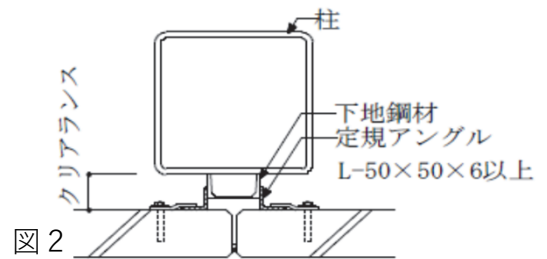


図2

4 図3において、横壁アンカー構法の間柱とパネル裏面（室内側表面）との間のクリアランスを25mmとした。

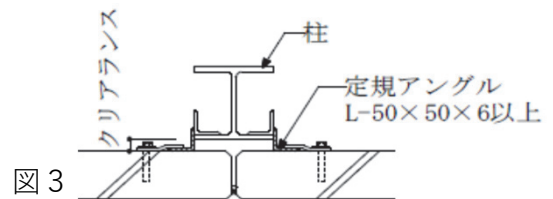


図3

問題21 ALCパネル工事の用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 補強材とは、パネル内に配置され、パネルを補強する棒鋼、鉄線をいう。
- 2 主筋とは、パネル内の補強材のうち、パネルの支点間方向に配置されるものをいう。
- 3 パネル厚さとは、パネルの最も薄い部分の厚さをいう。
- 4 パネル有効厚さとは、意匠パネルの最も薄い部分の厚さをいう。

問題22 ALCパネル工事とその作業に必要な仮設の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 パネルの搬入等のための搬入口および荷受け構台。
- 2 屋根用および床用パネルの取付け作業のためのブラケット足場。
- 3 外壁用パネルの取付け作業での枠組足場。
- 4 間仕切壁用パネルの取付け作業でのローリングタワー、高所作業車、立ち馬など。

問題23 ALCパネルの部位と荷重の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 外壁 ー 風荷重
- 2 間仕切壁 ー 固定荷重
- 3 屋根 ー 積雪荷重
- 4 床 ー 積載荷重

問題24 間仕切壁用ALCパネルの厚さごとの最大長さに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 厚さ75mm、80mm : 最大長さ4,000mm
- 2 厚さ100mm : 最大長さ5,000mm
- 3 厚さ120mm、125mm : 最大長さ6,000mm
- 4 厚さ150mm : 最大長さ7,000mm

問題25 ALCパネル工事の耐火目地材の説明に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 耐火性能が要求される建物には、パネルの伸縮目地部分に伸縮性のある耐火目地材を充填する必要がある。
- 2 耐火目地材として、ロックウール保温板1号の密度 8 kg/m<sup>3</sup>品を使用した。
- 3 耐火目地材として、アルカリアースシリケートウールの密度 96 kg/m<sup>3</sup>品を使用した。
- 4 パネルを貫通する設備などとの取合い部の隙間に、耐火目地材を充填することがある。